

### ナシ園でハダニ類の発生が多く見られます 早期の落葉を防ぐため、防除を徹底しましょう！

**[発表の内容]**

作物名 : ナシ  
 病害虫名 : ハダニ類  
 発生量 : 多い  
 発生地域 : 県下全域

**[発表の根拠]**

- ① 7月下旬現在、県内 20 地点のナシ調査圃場におけるハダニ類の寄生葉率、発生地点率はいずれも平年より高い。(表 1)
- ② 例年 7 月から 8 月にかけて寄生葉率、発生地点率ともに高まるが、本年は 7 月から高い値を示しており、さらに上昇することが考えられる。(図 1, 2)
- ③ 気象予報によると、向こう 1 か月の気温は平年より高いと予想され、発生を助長する条件である。

表 1 7月下旬のナシ圃場におけるハダニ類の発生状況

	本年値	平年値 <sup>1)</sup>	順位 <sup>2)</sup>
寄生葉率 <sup>3)</sup> (%)	3.7	0.3	1/11
発生地点率 (%)	40	13	2/11

1) 平年値：平成20年～29年（10年）分のデータの平均値  
 2) 順位：過去の調査年数における本年の順位を示す  
 3) 寄生葉率：生きているハダニ類の寄生を認めた葉の発生率

**[防除対策]**

- ① ハダニ類は、発生が多くなると防除が困難となるため、発生初期に防除を行う。
- ② 7～8月の乾燥期にハダニ類が多発すると早生種では葉焼けが助長され、早期の落葉を招くので、防除を徹底する。
- ③ 薬剤抵抗性の発達を抑えるため、表 2 を参考に IRAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。
- ④ 他害虫を対象に IRAC コード 3A (ピレスロイド系) の薬剤を散布すると、ハダニ類やカイガラムシ類が増加する場合がありますので、散布回数は最小限に抑える。
- ⑤ 薬剤防除の際は、収穫前日数に注意の上、かけむらがないよう十分な量で丁寧に散布する。

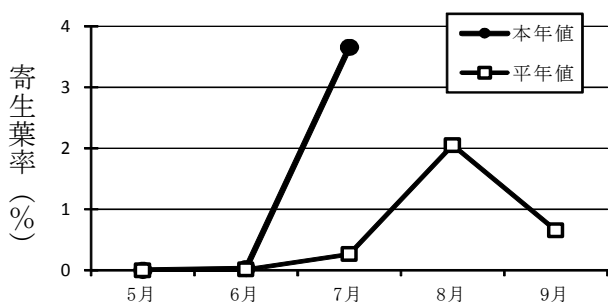


図 1 ハダニ類による寄生葉率の推移

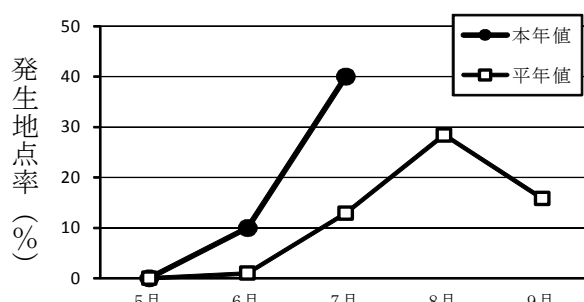


図 2 ハダニ類の発生地点率の推移

表2 ナシのハダニ類防除に使用できる主な散布薬剤（平成30年7月25日現在）<sup>1)</sup>

薬剤名	本剤の使用回数	有効成分の種類	同左毎の総使用回数	IRACコード <sup>2)</sup>
カネマイトフロアブル	1回	アセキノシル	1回	20B
コテツフロアブル <sup>3)</sup>	3回以内	クロルフェナピル	3回以内	13
コロマイト水和剤	1回	ミルベメクチン	1回	6
スターマイトフロアブル	1回	シエノピラフェン	1回	25A
ダニゲッターフロアブル	1回	スピロメシフェン	1回	23
ダニコングフロアブル	1回	ピフルブミド	1回	25B
マイトコーネフロアブル	1回	ビフェナゼート	1回	20D

1) 使用時期「収穫前日まで」の薬剤

2) 殺虫剤抵抗性対策委員会（IRAC）により、殺虫剤の有効成分を作用機構により分類し、コード化したもの

3) 適用病害虫はカンザワハダニ、ナミハダニ

(注意事項)

- ・農薬を使用する際は、ラベルに記載されている使用方法、注意事項を必ず確認する。



カンザワハダニ雌成虫



ナミハダニ雌成虫